



No. 1

Published on September 15, 2009 by 株式会社ミガロ.

大阪本社 〒556-0017 大阪市浪速区湊町2-1-57 難波サンケイビル 13F

TEL : 06-6631-8601 FAX : 06-6631-8603

東京事業所 〒106-0041 東京都港区麻布台1-4-3 エグゼクティブタワー麻布台11F

TEL : 03-5573-8601 FAX : 03-5573-8602

ミガロ. 社内報『どっと』



Begins!!



どっとのむこうへ

It's どっと Creative Members & Our Resolution

皆様!!!お待たせ致しました。新ミガロ社内報『どっと』がついに創刊となりました。本紙でミガロ社内報は第4弾のリニューアルとなりました。これまではミガロ社内報 = 新入社員プロジェクトの1つでしたが、今まで社内報を作り上げてきたクリエイティブなメンバー + α な構成となっております。どっと創刊にあたり、我々の意気込みを交えた熱い所信表明を宣言します。

どっとのむこうへ



八反

Executive Producer

はったん

『どっと』の創刊をここに宣言したいと思います。

社内報という媒体がここミガロ. に出来て、はや4年。その先駆けを、私は自身の新入社員プロジェクトとして活動させて頂きました。作る喜びやみせる楽しみ、試行錯誤の大切さを学べたほかに、挫けそうな失敗や未熟なゆえの空回りも経験しました。そんな1年間の収穫を得たあとは、作成担当の代が変わるたびに、それはそれは見事に成長してゆくミガロ. 社内報を間近で感じることができていました。そして、ここに新たなメンバーが集い、新たなミガロ. 社内報『どっと』を創刊いたします。『ミガロ.』を発信していきます。

見渡せば、そこに広がる確かな魅力。ミガロ. という集団。

光る人材。知識という武器。見えるひらめき。経験のなせる技。数ある発見。支える強さ。愛ゆえの厳しさ。笑顔の原動力。つながる行動。

『どっと』だけでなく、あなたのその先、そのビジョンは、確実に始まっていることでしょう。

個々が形作るミガロ.。ミガロ. にはミガロ. たる所以があります。そんな『どっと』のむこうを 目に、耳に、手に、ぜひ感じてください!

オマツ ミガロ.を魅せるツール『どっと』

Creative Supervisor

おまつ

Executive Producer 八反と上甲社長のもとへ「社内報をもう一度作らせてください!!」とお話をさせていただいてから、早いもので半年以上の月日が経過しました。編集者の立場から、アドバイザーを経験した我々は、もう一度作り上げる側へという共通の思いから、二人で新たな社内報プロジェクトを立ち上げることを決意しました。

新社内報コンセプトの決定、共に楽しんで編集を行ってくれる有志達への交渉、楽しむ為のプランニングなどを実施してきました。そして頼もしいメンバーに囲まれ、ついに創刊を迎えることができました。

17期社内報MIGZINE時代から私自身がこだわり続けてきた、「新鮮さ」を取り入れた記事を『どっと』を通じて、皆様に見ていただければと思います。そしてそれぞれのメンバーが、得意分野を存分に発揮できる場としていきたいと考えています。

編集者が楽しむこと。それが読者をひきつけることなんだと思う。

この一歩は大きな一歩



岩太朗

Creative Coodinator

いわたろう

このプロジェクトの中核人物であるExecutive Producer八反とCreative Supervisorオマツより、早くからこの話を聞いていました。ミガロ.としての社内報はどうあるべきか、そしてどうしていくべきか、二人からは強いエネルギーを感じました。

メンバーの参加要請をもらったのはそのときでしたが、私は即決しました。それは、何より、このプロジェクトの目的に共感したからでした。新社内報『どっと』における第一目的は「編集者自身が楽しむこと」です。それは、八反とオマツが社内報編集者時代に、編集者として必要なこととして感じていたことでした。同時に、私も一昨年の社内報編集者時代で同じことを感じていました。そのため、自分の力が少しでもこの二人に必要なものであるなら、全面的に協力したいと思ったことが即決の理由となりました。「読者が集まる社内報」とはどのようなことと考え、やはり編集者が楽しんでいなくてはなりません。そして、紙面としてビジョンがしっかりしていなくてははいけません。

私たちは普段は社内報以外の通常業務をしています。社内報をやることによって、自分の仕事の仕方を見直せるというメリットがあると思っています。仕事の大事なポイントである「こうしたい」という気持ちがなければ、社内報は1記事も書くことは出来ません。このプロジェクトによって新たな文化が出来たことに間違いはありません。そして、これからはこの『どっと』の中で、新たな文化が生まれていくことでしょう。私の役目としては、Creative Coodinatorとして、主格二人をバックアップしながら、目的を達成することです。

ピロピロ

Creative Artists

ひろひろ

「社内報プロジェクトを違った形で発行したい!その社内報にピロピロの力が必要なんや!」と、そんな言葉で私のところにプロジェクトの話が来たのはCreative Supervisorオマツからでした。そんなオマツの誘いに迷いはなく、即決でやるという事を決めました。と言うのも、私は16期の社内報プロジェクトで社内報の面白さを感じ、17期の社内報プロジェクト2.0の活躍を見て、18期の社内報プロジェクト3.0でアドバイザーという立場からプロジェクトに携わる事で、社内報をやってみようという思いが年々強くなっていったからです。今回のプロジェクトは新入社員プロジェクトではない、全く新しい社内報プロジェクトという意味での「どっと」にも繋がっているのではと思っています。

プロジェクトで私が担当するのはCreative Artists、つまり芸術は私が得意とする分野だと自負しています。この「どっと」では皆様が読んで飽きさせない芸術をご披露したいと考えています。

新たな挑戦!



ピンチをチャンスに

ナックル

Creative Designer

なっくる

このプロジェクトのお話を頂いたときは正直なところ嬉しさ半分、迷い半分でした。というのも、そのころは入社してから1年と少しが経ち、本格的に開発業務を行うようになってきた時期で、社内報作業との両立がかなり困難な状況だったのです。(この時私は2008年度社内報リーダーを担当していました。)

それと同時に新社内報に誘っていただいたオマツ先輩の熱意に応えたい気持ちもありました。その日、帰り道ですべてのことについて考えていましたが、頭の片隅ではこのチャンスを逃すのはもったいないという思いがずっとありました。そこで出した答えは「やってみよう」でした。2008年度社内報でできなかったこと、また、新たに挑戦したいことをこの社内報にぶつけてみたいと思ったからです。

私の役割であるCreative Designerの名に恥じぬよう、『どっと』に貢献していきたいと思えます。どっとメンバーの皆様、並びにこれからどっと読者になる皆様、宜しくお願ひ致します!

どっと放送局

さあ始まりました「どっと放送局」。「どっと放送局」では、毎月!?開催されている社内報クリエイティブメンバーズの"生声"をお届けするコーナーです。今月はNGKすぐそこの「大蔵」さんから、その様子をお届けいたします。



おしぼりアート
岩太朗 作

オマツ「それでは、八反より開会のご挨拶です。」

八反「同志達よ。今日は我々にとって素晴らしい門出となることでしょう。これからは楽しい道のりしか見えません。」

それでは・・・

一同「かんぱーいっ」

オマツ「それでは早速ですが、メンバー紹介をさせていただきます。まずは、ExecutiveProducerの八反です。」

八反「どっと総責任者の八反です。反物じゃあございやせん。」

担当は、やいのやいの言う係りです。どうぞ、よろしく!!

オマツ「そして私がCreativeSupervisorこと影の功労者、オマツです。いろんな意味での楽しませ役です。」

続きましてCreativeCoordinatorの岩太朗。」

岩太朗「企画班ならびにデザイン班の橋渡し役の岩太朗です。アイデアマシーンです。」

オマツ「そして、CreativeArtistsのピロピロとCreativeDesignerのナックルです。」

二人にはどっとのデザイン力とアート力となってまいりますので、そのお力を存分に発揮しちゃってください。」

ナックル「まずはウサギのキャラつくりました。」

八反「ミガロマスコットキャラのミガブーもなかなかのクオリティーよ。」

オマツ「ミガブーは応援キャラに変更しました。二人からの最強マスコットキャラの登場を期待し、マスコット枠はあけておきました。」

八反「その調子でどんどんマスコットキャラつくりを進めてください。」

岩太朗「広告案の企画も進んでますんで、期待しておいてください♪」

オマツ「いやー、頼もしいメンバーがそろい、これから楽しみですね!!」

八反「そんなこんなで、これからええもん作っていきなさいと思いますので、みなさんがんばっていきましょう。」

一同「Yeahhhhhhhh!!!」



今月のどっと名言!!

楽しむべし!

Presented by オマツ



どっと応援
キャラクター
ミガブー

エンジニアのためのわかりやすい技術メディア！ テクニカルチャンネル

ITにやさしさを！
「スイートIT」

技術者にとって不可欠な情報を、
“身近に分かりやすく” お伝えします。
presented by 岩太朗（どっと）



Part.1 開発者に必要とされる情報収集能力とは



写真〇株式会社ミガロ。システム事業部
システム3課主任 小杉 智昭氏
元製品サポート担当。小杉氏はミガロ、
社員の技術知識に関して「まだまだ好奇心
が足りない」と訴える。

情報収集能力の必要性

システムエンジニアは、お客様の要望に応えるため、日々技術力向上を目指している。そのためにまず必要とされるのが、“情報収集能力”ではないだろうか。普段から、業務に関わる技術書や業務知識などの書籍を読んでおられる方も多いと思う。しかしながら、最新技術の収集に関しては、人によって大きな差が生じるのも現実である。これはいかに、日ごろから情報収集を行おうとする意識によるが、コツは無いだろうか。

今回は、誰もが技術のことで相談するシステム3課主任の小杉氏にスポットを当てた。

キーマンからの情報を得る

小杉氏は、普段から様々なメディアを利用して情報収集をされている。今回は、Delphi 開発者が確認しておくべきサイトを5つ挙げていただいた。開発者はこの機会に是非チェックして欲しい（右上）。

注目すべきはブログなどの個人のメディアが多いということである。中には Delphi 製品のテストを担当した過去をもつ方もおられるという。情報は必ず人から発信されるものである。そのためキーマンからの情報を把握しておくことで、最新情報のキーとなる情報をいち早く入手できるのである。

各技術提供サイトの URL

- Team Japan
<http://blogs.embarcadero.com/teamj/>
- Allegro Barbaro
<http://blogs.itmedia.co.jp/barbaro/codegear/>
- Owl's perspective
<http://owlserspective.blogspot.com/>
- Tonicapan.NET
<http://tononica.s41.xrea.com/>
- marco's tech world
<http://blog.marcocantu.com/>

今回教えていただいた Delphi に関する技術提供サイト

公式系メディア

Team Japan
Allegro Barbaro

個人系メディア

Owl's perspective
Tonicapan.NET
marco's tech world

※個人系メディアから得られる情報はとても多い（URL は左記を参照のこと）

まず「好奇心」、次に「検証能力」

「いまどき、どのブログを見てもリンクやトラックバックだらけ。それを見るか見ないかは好奇心に掛かる」

優良な情報を得る上で必要な視点として小杉氏はこう訴える。人に教えられなくても情報は既にあふれている。

収集能力=発信能力

小杉氏は、自分が朝礼の番になると、スピーチのネタに技術情報を取り上げられる。その朝礼により、最新の情報を知る社員が多くいるのも事実である。その情報を求めて社員は氏に質問したりその話題をしたりする。そうすることで、より情報が正確で深まるものになるのではないだろうか。情報発信はすぐに実行できることでもある。

我々にとってその情報発信の手段は、なにも朝礼だけではないはずである。たとえば社内 SNS など自分が得た技術情報を公開してみるのもいいのではないだろうか。それは現在ミガロで扱っている製品に捉われず、それぞれの得意分野に応じて、お互いの情報の質を高めていけばいいのである。

（岩太朗=どっと編集）

情報収集能力

質の向上
↓
好奇心
↓
検証能力

しかしながら、好奇心だけでは良質な情報にたどり着くことは難しい。氏は「その情報が正しいか検証して自分で判断する必要がある」と続ける。たとえ発信された当初は正しくても、時がたてばその情報が変わっていることもある。

☆これ、なーんだっ☆

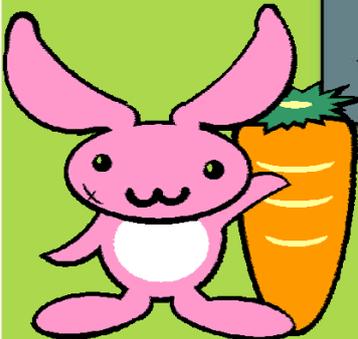
「ぼく、D.J.だよ。うさぎのD.J.だよ」

「ぼく、困っていることがあるんだ。
このクイズが解けなくて困っているんだよ。 困りすぎてにんじんもノドを通らないよ。」

「誰か助けて〜」

<第1問>
口の中に木が生えた。どーなる？

<第2問>
山が2つもある口って、どーこだ？



レスポンス 随時募集中!

～皆様の声を聞かせてください～

さらなる『どっと』加速のため皆様の
お声をぜひともお聞かせください。
感想・意見・指摘・お褒めの言葉などなど、
皆様のお力で『どっと』を進化させてください。
そのお声が新たなひらめき、さらなる進化、
『どっと』の力を生む事を私達が保証いたします。

編集後記

はい、創刊号でしたね。その名も『どっと』！本誌名に命名されるまで、本当に星の数ほどアイデアが輝いては消え、輝いては流れ…。アイデアマンのこだわり勝負が繰り広げられたかと思うと互いの案を褒め合うといった紆余曲折がありました。そんな『どっとNo.1』発行に至るまでのドラマは、いつかの機会にお披露目したいと構想中です。
最後になりましたが、新しく社内報を創刊するにあたり快く承諾頂きました上甲社長、ありがとうございました！また、これから特集させて頂くミガロメンバーのみなさん、どうぞ新感覚ミガロ、社内報『どっと』をよろしく願います。（はったん）